

にゆう

日程
1泊2日



コースマップ→P71

技術度 4

体力度 2

稲子湯 ● みどり池 ● 中山峠 ● にゆう ● シャクナゲ尾根 ● 稲子湯

人気の小屋に泊まって静かな尾根を楽しむ



稲子湯旅館の正面にある入山口

中山峠から続く断崖の北東端にそびえる「にゆう」。奇妙な名前は、刈った稲を積み上げた稲積「にお」に由来する。稲子湯からみどり池、中山峠を通って北上するコースは静かな山歩きを楽しめる。特にシャクナゲ尾根は人が少なく、ありのままの自然に触れることができる。

1日目

稲子湯から
しらびそ小屋へ

稲子湯旅館の前から入山する。車道を2回横切るとみどり池入口バス停に出る。ゲートを越えて唐沢橋を渡り、カラマツの森を緩やかに登る。2つ目の林道を右に進み、曲がり角で登山道に入る。ふた

たび林道に出るが、屏風橋まで直進せず、標識を左折して小川沿いの道を登る。

休憩適地のこまどり沢の先から傾斜が増す。コケむした石がゴロゴロと重なるシラビソ林をジグザグに登る。谷状地を左に見て急登すると、平坦な道になる。左折してまもなくしらびそ小屋に着く。

硫黄岳から続く断崖の北端にそびえるにゆうの山頂

歩行距離

1日目 3.1km
2日目 8km

参考コースタイム

1日目 2時間15分
2日目 5時間15分

紅葉

10月上旬～
10月下旬

高山植物

7月上旬～
8月中旬

登山適期

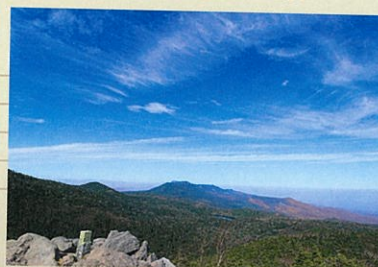
5月下旬～
10月下旬

標高

2352m
(にゆう)

Data

にゆう山頂から白駒池
方面を望む



25
水平距離 [km]

20

15

10

5

0

標高 [m]

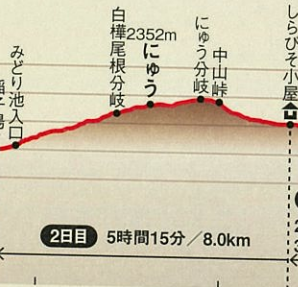
3000

2500

2000

1500

1000



みどり池のほとりに立つしらびそ小屋



山小屋情報

稲子湯旅館 ☎0267-93-2262
しらびそ小屋 ☎090-4739-5255

マイカー情報

中央道須玉ICより国道141号、県道480号を経て約52km、約1時間20分。稲子湯旅館の駐車場を利用、1日300円。



秘湯の趣のある稲子湯旅館。下山後の立ち寄り入浴も可能

公共交通機関

〈往復〉

JR小海線小海駅

↑ 小海町営バス
約35分 約800円
☎0267-92-2525

↓ 稲子湯



しんと静かなみどり池。東天狗の存在が際立つ

2日目
みどり池から
にゅう、稲子湯へ

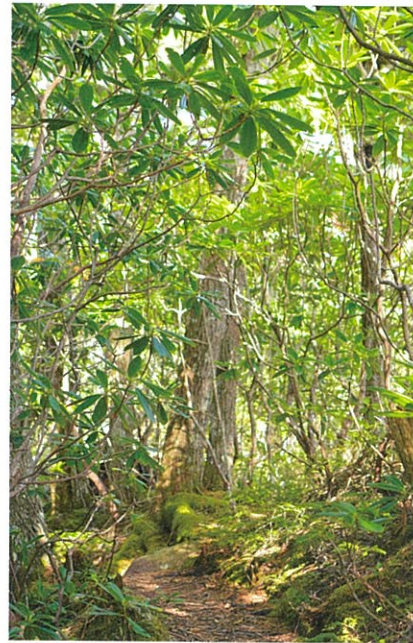
みどり池を出発し、しばらく森林軌道跡のレールに沿って歩く。本沢温泉分岐を過ぎると時折、登山道に沿って緑のロープがあるので、これに従って歩こう。小広い休憩適地の先から傾斜が強まり、斜面崩落箇所に出る。落石に注意して登り、2カ所のクサリ場を経て中山峠に出る。

北上してにゅう分岐を右に

進む。崖沿いに道が続くが、樹林に囲まれて眺望はない。少し下って尾根状の道に戻ると、前方に屹立するにゅうが目に入る。絶景ポイントだ。左から回り込むように岩塊のにゅう山頂に立つ。硫黄岳から続く断崖の東面が一望できる。

下山はシャクナゲ尾根をめざす。白駒池方面に下り、稲子湯方面に右折する。道が細くなり、白樺尾根分岐の十字路を稲子湯方面に右折して、

シャクナゲ尾根は文字どおりシャクナゲ帯。初夏は花が楽しめる



支尾根を右に回り込む。まだらかな斜面を下り、丸太橋を渡り、ぐっと下って谷を越えた先がシャクナゲ尾根の上部だ。左の谷を一部下るが、その先尾根通しに下り続ける。標高1880m付近からシャクナゲ帯に入る。

植生がササへと変わり、大岩に突き当たったら左に下る。林道に出て右折し、カートの先で登山道に入り、みどり池入口に着く。約20分で稲子湯まで戻る。

Column



みどり池から本沢温泉分岐にかけての軌道跡

みどり池周辺の森林軌道跡

みどり池周辺では昭和20~30年代にかけて林業が栄えた。稲子湯からみどり池、分岐して中山峠と本沢温泉の半ばまで森林軌道が引かれていた。今もその名残が見られる。空のトロッコは馬が曳き上げたという。

にゅうの注意点



中山峠手前の産崩れ
中山峠の手前は落石注意の標識が複数あり、崩壊がはなはだしい。上方の様子を見ながら、足元に気をつけて進む。



シャクナゲ尾根上部の曲がり角
シャクナゲ尾根に上部から合流する地点は直進しないよう注意。谷にストンと下った先を東へ、と覚えておこう。

山腹から尾根に出て東へ下る。テープが張られて